

ダイバーシティの反面教師

筑波大学 正会員 谷口 綾子

1. 目的

本稿の目的は、土木計画学研究に携わる方々に「ダイバーシティとは何か」という答えのない問の解をご検討いただくにあたり、陥ってはいけぬ反面教師となり得る事例を二つ、何が正解か難しい事例の一つを紹介し、そうならないための打開策を検討することである。具体的には、筆者が体験した三つのエピソードを紹介し、それらへの対処を検討することを通じて、土木計画学のダイバーシティを考える一助としたい。

2. エピソード1：アンケート調査における性別の記載(2019年3月)

表1 総務課と筆者との電子メールのやり取り

総務課：アンケート調査票ですが、性別の表記については、申し訳ございませんが、別添のとおり削除という形にさせていただきたく存じます。性別の記載は、先生にとって、調査のための重要な情報であるということは重々承知しております。しかし、ダイバーシティの観点から考えた場合、性別の記載については、慎重な対応が求められており、実際この点で問題になっているケースもございます。今回のアンケートは全新生向けに行うものであるということからすると、より慎重な対応が求められると考えておりますので、何卒御理解・御協力の程よろしくお願い申し上げます。

筆者：性別を削除とのこと、ダイバーシティの観点からは「その他」の選択肢を追加すれば問題ないと思います。そのように対応させていただけないでしょうか。性別は年齢とともに交通行動だけでなく嗜好・指向・思考に影響する可能性のある基本情報です。性別がないと、せっかく計測する簡易健康指標 BMI の影響も検証できません(例えば男性の方が BMI が高い)。お手間をおかけし恐縮ですが、ご検討いただくと幸いです。

総務課：アンケートですが、再度検討いたしまして、別添のように、性別は選択ではなく、記述してもらう形にしてください。

筆者：Xさまは、性別を文字で書かせるアンケートをご覧になったこと、あるいは、回答した経験がありますでしょうか？ご提案の質問だと回答者の負担が増えることになり、文字で書くよりも、○を付けるだけの方が圧倒的に負担が少なくなります。その結果、性別の記入率が下がることが予想され、他の項目との対応が分析できず、せっかく回収したそのアンケート票が欠損値として扱われることになりかねません。アンケート調査、心理学で言う質問紙法を専門とする研究者として回答者の負担を出来るだけ低減しつつ、計測したい項目を入れ込むために【性別は選択肢で問う】方向で、再度ご検討いただけないでしょうか。

総務課：申し訳ございませんが、これ以上は譲れません。そういうアンケートは実際あります。大学全体として、ダイバーシティの問題はとても重要なものであり、そもそもこちらとしては記載を除外したかったところを、先生のお考えに配慮し、欄を設けること自体は致し方ないと判断したものです。選択制の方が質問の方法としては良いことは重々わかりますが、何卒御理解・御協力の程よろしくお願いいたします。

筆者：なぜ選択肢が不適切なのか、ご説明いただけますか？理由に納得できればもちろん記述式でかまいません。ダイバーシティに配慮する、ということであれば選択式(あるいは、4. 答えたくない という選択肢もあり得ます)で全く問題ないように思います。

総務課：私は選択肢の方が楽ですが、ジェンダーに悩んでいる人にとって、選択肢という形で区別を示されることは適切なのでしょうか。まして、「答えたくない」という選択肢は、「男」か「女」を簡単に選択できないから選ぶ選択肢で、結果的に「その他」と回答していることと同義ではないでしょうか。全新生に配付するものである以上、こちらの見方に基づく区別を設けるべきではなく、記入者の自由に任せるべきと判断しています。何卒御理解いただくようお願いいたします。

筆者：当方の言葉足らずで恐縮です。選択肢は左記4つを提示します。【1. 男性, 2. 女性, 3. その他, 4. 答えたくない】。このうち「3. その他」は「こちらの見方に基づく区別」以外の選択肢であり、かつ、「4. 答えたくない」で回答者の自由意思を尊重しています。正直、ここまで強硬に性別の設問に反対される意味がわかりません。当方の意図は、性別の分析が重要であるので、ジェンダーに配慮しつつ回答率を下げたくない、回答しやすさを重視したい、ということです。幸い、筑波大学にはダイバーシティ推進の部署がありますのでこれからそちらに問い合わせたいと思います。

(上記メール送信後、本学ダイバーシティ推進室(DAC)に電話で問い合わせた)

筆者：この件では、お忙しい中お手間をおかけし恐縮です。何度も丁寧に確認していただきありがとうございます。先ほど、DACのK先生に問い合わせたところ教育推進室からも同様の問い合わせがあったそうで、その際には 1)性別を問うことが、分析上必要な場合、選択肢を左記のように記載すれば問題ない【1. 男, 2. 女, 3. その他, 4. 開示しない】との見解を示されたそうです。交通行動やBMIには性差があることが既往研究から知られており性別は分析の妥当性を担保するために必要であると説明したところ、1)はクリアしているのでは、とのことでした。よって今回は、性別を添付ファイルのように記載させていただきたくお願い申し上げます。

総務課：DACセンターに問合せいただき、ありがとうございます。こちらとしても最終判断が難しく、DACセンターへの問合せが必要かと考えておりましたので、助かりました。DACのK先生からは私のところにも電話があり、こちらの懸念を伝えた上で、バランス上、今回のケースは、【1. 男, 2. 女, 3. その他, 4. 開示しない】という選択肢を設けるのが妥当だと仰っていましたので、いただいたアンケートデータのとおりとしていただければと思います。ただ、全新生に配付するという特殊性がある以上、選択肢の欄を設けたことで、この件に関して問合せが入る可能性は否定できないと思いますので、その場合には、アンケート実施元として、誠実に対応していただくようお願いいたします。

筆者は交通工学・交通計画を専門としていることから、筑波大学周辺のバスやカーシェアリング、宅配便再配達問題への対応等を担っている。この一環として毎年4月の新生オリエンテーション時に、バスやカーシェアの利用実態把握と利用促進のためのアンケート調査を実施している。全新生を対象とした調査であることから、調査内容は総務部総務課のチェックを受けることになる。そこで起きたのが表1のやり取りであった。

3. エピソード2：新たな管理職の設置(女性限定，管理職手当てなし)(2019年4月～)

筆者の属する総合大学では，2019年4月より「新たな管理職」を各部局に設置することとなった．その目的は 1)管理職を補佐する体制を強化するとともに各組織におけるネクストリーダーを養成する，2)組織運営における意思決定に多くの女性が参画するための環境を構築する，とのことであった．対象組織は全ての系，研究科，学群(学部)，その他であり，職名は例えば「研究科長特別補佐」「学群長特別補佐」となる．職務内容は 1)組織の長の職務を補佐，2)ダイバーシティマネジメントへの取り組み，とされ，任期は1年，管理職手当ては無し，対象職位は【教授または准教授とし，女性限定とする】とのことである．

筆者はこの施策を検討するため2017年度に開催された全学の会議「女性管理職(大学教員)育成に係る会議」に研究科を代表して参加しており，会議の場で終始この施策に反対意見を述べていたが，力不足により実現することになってしまった．

4. エピソード3：大人の時間の子ども

学会や研究会，大学のゼミ合宿等で，参加者が子どもを同伴する姿を目にするようになった．筆者も息子が幼い頃，配偶者や祖父母，自治体のファミリーサポート等の都合が付かず，どうしても預けることが出来なかった折には同伴した経験がある．今になって考えると，会合の趣旨と無関係の子どもについて他の参加者がどう感じたか，見知らぬ大人の間で過ごした息子がどう感じたか，そして子連れ参加した自分が本当に充実した時間を過ごせたかは微妙であるようにも思う．

先ごろ，大学教員，国際協力を行う機関の職員，学生と夕食を共にする機会を得た．ある発展途上国での支援と調査研究を目的とした出張ではあるが，日曜の夜のプライベートと言えなくもない会合である．そこに2歳の乳児が同席した．当然ながら，乳児は会合の空気を読むことなく自由に振舞い，大人の会話は何度も中断し，時には乳児への対応がその場の中心的関心事となった．22時を過ぎてその乳児を抱える女性職員が帰宅した後，残った参加者で子どもの同伴について議論となった．その女性職員は乳児を抱え発展途上国に単身赴任しており，子どもと二人だけの閉塞感から少しでも解放されたかったのかもしれない．一方で大人の会話を無関係の乳児に妨げられるのは如何なものか，連れて来るべきではないのでは？この国際協力機関では公式ではない夕食への子ども同伴はよくある話である．そもそもこの会合の意味は？22時まで乳児を同伴することに驚いた¹⁾，子ども同伴はどこまでは許されるべきか？等々．唯一の正解は，なさそうである．

5. おわりに

これら三つのエピソードは，ダイバーシティとは何か，ダイバーシティを担保するために何が必要か，を考える契機となり得るように思える．土木計画学におけるダイバーシティをこのセッションに参加する皆さんとともに考えて行きたい．

参考文献

1) 谷口綾子，奥山有紀：子育てバリアフリーにおける世代間ギャップと副作用の存在に関する研究，土木学会論文集 D3 (土木計画学)，Vol. 68，No. 5 (土木計画学研究・論文集第 29 巻)，pp. I_1133-1142，2012.